|  |
| --- |
| **質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容** |
| ①　交流プログラムの目的・概要等【1ページ以内】○国民にとって分かりやすい具体的な目標が設定されているか。また、当該目標がプログラムの社会的・国際的通用性を示すものとなっているか。○養成しようとする人材像が明確に設定されているか。○アウトプットだけでなくアウトカムに関する具体的な目標及び指標が設定されているか。○学位もしくは単位取得を目的とした修士（博士前期）課程等の交流を中心に据えた国際交流プログラムとなっているか。（★） |
| 【交流プログラムの目的及び概要等】 |
|  |
| 【養成する人材像】 |
|  |
| 【本プログラムで計画している交流学生数】各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位の取得の有無は問わない） |
|

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 | 2028年度 |
| 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

 |

|  |
| --- |
| **②　プログラムの概念図【１ページ以内】** |
|  |

|  |
| --- |
| **③　国内大学等の連携図【1ページ以内】** |
|  |

|  |
| --- |
| **④　交流プログラムの内容及び大学間交流の枠組み形成【８ページ以内】**○質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組が設定されているか。○我が国の大学間交流促進の牽引役となるような先導的なプログラム計画であり、大学の中長期的なビジョンのもとに戦略的な交流プログラムが計画されているか。○プログラムを実施する部局等にとどまらず、全学的な責任・協力体制の下でプログラムが構築されているか。（★）○短期の交流から学位取得を見据えた長期の交流、オンラインを活用した様々な交流を見据え、大学間交流の発展に繋がるような、柔軟で発展的な交流プログラムとなっているか。○多様な学生に交流プログラムへの参加の機会を提供できるよう、必要に応じ我が国の大学と連携してプログラムを行うものとなっているか。○日本人学生の留学の障壁である語学・心理的ハードルを下げること、実渡航の効果を最大限に高めることを目的に、実渡航前に、例えばオンライン交流等の事前交流を実施するものとなっているか。実渡航前の交流にあたっては、以下に該当する質の伴った教育研究、学生交流となっているか。なお、オンライン交流が中心となり、実渡航期間が極端に短い（１か月未満程度の）プログラムは認められない。（実渡航前の交流は、オンラインでの実施を必須とはしない。）（★）・協働／共修学習活動（※）が含まれたもので、教育効果に十分配慮した交流となるよう、双方向性（対話性）を確保すると共に、現地学生や教員との交流等について大学等の関係機関や団体等間で事前に協議し、その交流内容と得られる教育効果が具体的に示されているもの。※協働／共修学習活動：国内外の学生が共に遂行するプロジェクトを通じた学び○本事業を通じ、英語で卒業（修了）可能なカリキュラムを実施する場合、外国人留学生と日本人が真に学び合う学修環境（アクティブラーニング等）が実施される取組となっているか。（★）○留学後にも学生に対して継続的にフォローアップを行うことで、留学の効果を持続させる計画となっているか。（★）○下記①～⑥の少なくとも一つ以上に該当する、質の保証を伴った交流プログラムの実現を目指すものとなっているか。（★）①各参加大学において、単位取得可能な英語科目が十分提供され、自大学における単位の認定が保証される等、学生が自由に科目選択できる交流の実施②相互に留学先の地域で研究機関・企業や国際機関等におけるインターンシップ等を組み込む等、将来のキャリア形成に資するプログラムの作成・実施③修士（博士前期）段階での留学を促進することを目的に、学部の段階から留学へのハードルを下げるような交流・広報等を実施し、修士（博士前期）段階における留学生を増加させる取り組みの実施④留学生の受入れ等における安全保障貿易管理において、他大学の参考となるような管理やFD（ファカルティ・ディベロップメント）の取組を実施、もしくは導入予定⑤国際共同学位カリキュラム（ジョイント・ディグリー（以下「JD」という。）もしくはダブル・ディグリー（以下「DD」という。））を構築し、プログラム開始5年目までに実施⑥AP（アドバンスト・プレースメント）科目の導入（※）により、高校から学部、学部から大学院進学に繋がるような計画（JV-Campus等のオンラインの活用も推奨）の実施※例えば、大学生がある大学院で科目等履修生として取得した単位が、当該大学院への入学後に既修得単位として認定する取組等の導入を想定。○透明性、客観性の高い厳格な成績管理（ルーブリック等を用いた各授業科目の到達目標の具体的な達成水準の明確化や教務に関する委員会の点検等を通じた事後的に検証する仕組みの構築等）、コースワークを重視したカリキュラムの構成、学生が履修可能な上限単位数の設定、学修目標の明確化、学修成果の可視化と出口管理の厳格化に努め、単位の実質化を重視しているか。○単位の付与・相互認定や成績管理、学位授与に至るプロセスが明確になっているか。○国際公募による外国人教員の招聘や海外大学での教育経験または国内外の大学で英語等による教育経験を有する日本人教員の配置、海外相手大学との教員交流、FD等による教育力の向上等、質の高い教育が提供されるよう交流プログラムの内容に応じた教育体制の充実が図られているか。○JD、DDの設計に当たっては、中央教育審議会大学分科会大学のグローバル化に関するワーキンググループ「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」（平成２６年１１月）を踏まえたものとなっているか。○国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の「高等教育の資格の承認に関する世界規約」において推奨する、「部分的な修学の承認」や「非伝統的な資格取得の形態」により取得された資格の承認・評定（例：学修歴証明のデジタル化、マイクロクレデンシャル）の趣旨や考え方を十分に理解した上で、プログラムが構築されているか。 |
| 【実績・準備状況】 |
|  |
| 【計画内容】 |
|  |

|  |
| --- |
| **達成目標【①～②-2合わせて４ページ以内】** |
| ○国民にとって分かりやすい具体的な目標が設定されているか。また、当該目標がプログラムの社会的・国際的通用性を示すものとなっているか。○アウトプットだけでなくアウトカムに関する具体的な目標及び指標が設定されているか。 |
| **①　養成しようとするグローバル人材像について**○養成しようとする人材像が明確に設定されているか。（これを踏まえたアウトプット及びアウトカムが設定されているか）○プログラムへ参加する学生に修得させる具体的能力が設定されているか。 |
| （ⅰ）プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028年度まで） |
|  |
| （ⅱ）中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025年度まで） |
|  |
| **②-1　学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について**○一定の外国語力基準（外部検定試験のスコア等）をクリアする日本人学生数について適切な目標が設定されているか。（★） |
| （ⅰ）本プログラム計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標 |
| 単位：人（延べ人数）

|  |  |
| --- | --- |
| 外国語力基準 | 達成目標 |
| 中間評価まで(ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ開始～2025年度まで) | 事後評価まで(ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ開始～2028年度まで) |
| 【参考】本プログラム計画において派遣する日本人学生合計数 |  |  |
| １ |  |  |  |
| ２ |  |  |  |
| ３ |  |  |  |

 |
| （ⅱ）外国語力基準を定めた考え方 |
|  |
| （ⅲ）プログラム計画全体の目標達成に向けたプロセス（プログラム開始～2028年度まで） |
|  |
| （ⅳ）中間評価までの目標達成に向けたプロセス（プログラム開始～2025年度まで） |
|  |
| **②-2　学生に習得させる具体的能力のうち、「②-1」以外について** |
| （ⅰ）プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028年度まで） |
|  |
| （ⅱ）中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025年度まで） |
|  |

|  |
| --- |
| **③　本プログラム計画において海外に留学する日本人学生数の推移【１ページ以内】**○日本人学生の派遣数について適切な目標が設定されているか。（国別、交流期間、留学の性質、実渡航・オンライン・ハイブリッド等）について適切な目標が設定されているか。（★）○日本人学生の派遣数と外国人学生の受入数が同数程度となるような計画となっているか。（★） |
| 現状（２０２４年５月１日現在）※１ |  | 人 |
| （ⅰ）日本人学生数の達成目標 |
| 単位：人（延べ人数）

|  |  |
| --- | --- |
| プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028年度まで） |  |
| 中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025年度まで） |  |

 |
| （上記の内訳）（ⅱ）目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（プログラム計画全体、中間評価までの双方について） |
| 単位：人

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 | 2028年度 | 合計 |
| 実際に渡航する学生 |  |  |  |  |  |  |
| 自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 |  |  |  |  |  |  |
| 実渡航とオンライン受講を行う学生 |  |  |  |  |  |  |
| 合計人数 |  |  |  |  |  |  |

 |
| （ａ）実渡航による交流 |
|  |
| （ｂ）オンラインによる交流 |
|  |
| （ｃ）実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流 |
|  |

|  |
| --- |
| **④　本プログラム計画において受け入れる外国人学生数の推移【１ページ以内】**○外国人学生の受入数について適切な目標が設定されているか。（国別、交流期間、留学の性質、実渡航・オンライン・ハイブリッド等）について適切な目標が設定されているか。（★）○日本人学生の派遣数と外国人学生の受入数が同数程度となるような計画となっているか。（★） |
| 現状（２０２４年５月１日現在）※１ |  | 人 |
| （ⅰ）外国人学生数の達成目標 |
| 単位：人（延べ人数）

|  |  |
| --- | --- |
| プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028年度まで） |  |
| 中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025年度まで） |  |

 |
| （上記の内訳）（ⅱ）目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（プログラム計画全体、中間評価までの双方について） |
| 単位：人

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 | 2028年度 | 合計 |
| 実際に渡航する学生 |  |  |  |  |  |  |
| 自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 |  |  |  |  |  |  |
| 実渡航とオンライン受講を行う学生 |  |  |  |  |  |  |
| 合計人数 |  |  |  |  |  |  |

 |
| （ａ）実渡航による交流 |
|  |
| （ｂ）オンラインによる交流 |
|  |
| （ｃ）実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流 |
|  |